

別紙様式 3

ブロック名 九州

2. 献血構造改革（平成17年度～21年度）の問題点及び今後の取組への課題

①若年層献血者数の増加

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
福岡県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校献血の実施推進 ・ 地域献血の会場として高等学校を使用 ・ 小中学生・高校生に対する献血出前講座や普及啓発に努めた。 	
佐賀県	ショッピングセンターなどでの献血の折に、小児を連れた若い夫婦に献血をしてもらう目的で風船を配ったところ、20代、30代の比較的若い人たちの献血協力が多くなった。	
長崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校長会総会、養護教諭部会での献血推進依頼。 ・ 医療系専門学校での献血実施。(2日間で111名の献血実績。そのうち初回献血者数が67名、初回献血率約60%) 	

<p>熊本県</p>	<p>○学生献血推進協議会の活動活性化支援(血液センターとの協働)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年開催する研修会の実施(行政が講師、助言者等で参加) (学内献血やキャンペーンの年間計画を立てることなどにより、各大学間における献血、啓発の実施状況を情報交換することが学内献血に役立つ。) ・若者が喜ぶ啓発グッズの作製、提供 (クリアファイル、定規、ティッシュなどを、学内献血やキャンペーン等の活動時に配布。) ・学内献血の実施及び啓発グッズの提供 (協議会のメンバーが中心となり、献血への呼びかけを実施しており学生献血者増へ繋がっている。) ・各種キャンペーンへの参加 クリスマス学生献血キャンペーン、はたちの献血、春の献血キャンペーン (若者から若者に呼びかけることが献血者増に繋がっていると思われる。) ◎ 学内献血 H21 年度 400mL 1,969 人(前年比 107%) ◎ 学生主催キャンペーン実施の増加 <p>○若者情報誌への掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「NO(エヌオー)！熊本」、「月刊タウン情報クマモト」へ献血推進関係を掲載し、若年層献血者の増加を図った。(県) 	<p>○ 高校生に対する献血(献血初体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本県は、高校時の献血体験が将来の献血者に繋がっていくと考えていたことから以前はほぼ全高校に年1回は出向いていたが、高校生は200mL献血が主のため、400mL献血を推進する観点から、近年は、3年に1回の実施になり、ここ数年は高校で献血を実施することは少なかった。 ・このことが、若年層の献血離れに繋がっていったことが想定される。 ・採血基準の改正に伴い、高校生へ献血の呼びかけを実施していくことが必要になるが、高校での献血の実施が若年層献血者増になり将来の献血者に繋がると思われるため、高校、特に学校長への働きかけが重要。 ・県教育庁や校長会への説明及び各高校へ個別の協力を依頼していくことが必要。そのためには、県と血液センター連携して進めていかなければならない。
------------	--	---

大分県	<p>○献血セミナーの実施（大学・看護学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院献血時に病院併設の看護学校の学生の献血受付者及び400mL献血者が増加 ・ 受付数（前回53人→今回60人） ・ 400mL献血者数（前回32人→今回40人） 	<p>○高校献血推進強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効果が見られなかった事業ではないが、高校献血を推進するにあたり、様々な問題点が浮き彫りとなった。 <p>（例）献血で抜けた生徒の授業の確保が困難 栄養状態の悪い生徒が多く、体調不良が心配 献血できない生徒の人権問題 集団での献血による生徒への心理的強要</p>
宮崎県	<p>学生献血推進協議会と連携して、学内献血当日の通学時間帯に事前PRを行った（献血の周知が図れ、献血増に繋がった）</p>	
鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献血出前講座の実施 ・ 学生献血推進協議会の活動支援 ・ 主要大学での献血強化による献血者増 <p>鹿児島大学 H20年度 205人→H21年度 440人 鹿児島国際大学 H20年度 174人→H21年度 335人</p>	
沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生を対象にした献血講座について、学校へ出向き、担当教諭に啓発用DVDを事前に見せ、説明することで協力校が増加した。 <p>【参考】献血実施回数（ ）内は献血者数 H19年度：14回（551人） H20年度：26回（929人） H21年度：29回（1,035人）</p>	

②安定的な集団献血の確保

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
福岡県	市町村、ライオンズクラブ等に対し、継続的に研修会等を実施し、理解と協力を求めた。献血目標人数では H17. 20. 21 達成。	
佐賀県	市町村やショッピングセンターで献血を実施するときは、青年会議所・法人会等の献血協力団体に主催をお願いすることで、関連企業等の協力があり、安定的な集団献血が確保できる。また、事業所ごとの献血は主に年2回行っている。	
長崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・ライオンズクラブ、商工会議所等への企業献血実施依頼。 ・献血推進委員に対してキャンペーン等への協力依頼。 	
熊本県	<ul style="list-style-type: none"> ・ライオンズクラブの合同研修会にて、目標数や啓発方法等を積極的にお願ひし、協力数が増加した。 ・H20年度 5,153人→H21年度 6,092人 	サポーター事業・・・あまり効果なし
大分県	<ul style="list-style-type: none"> ○ライオンズクラブ献血推進セミナー ・献血実施回数増による協力者数の増加 ・19年度 8,006人→20年度 8,385人 	
宮崎県	<p>「町、総ぐるみ献血参加運動」の実施</p> <p>8市町で実施した結果、前年度同期実績の200%以上の協力を得た</p>	

鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な企業訪問 ・ 国の緊急雇用対策事業（献血普及啓発事業）を活用した普及員の企業訪問活動 ・ 建設業協会主催による献血（社会貢献事業の一環として実施）や建設会社（関連会社含む）による献血の実施 ・ 管工事協同組合主催による健康診断日に合わせた献血の実施 	
沖縄県	<p>大手企業へ継続した献血協力の依頼を行うとともに、メディアを通じ企業が献血する模様を広報することで、企業のイメージアップを図り、献血の推進を促している。</p>	

③複数回献血者の増加

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
福岡県	メールクラブ・PCクラブ等、登録の推進及びメール配信	
佐賀県	複数回献血クラブへの登録のお願いとしてパンフレットを配布し、普及・啓発を行っている。(現在会員数 1,072名)	
長崎県	複数回献血クラブへの登録をH21.10月より携帯メールからも可能とし、チラシを作成したところ、月1～2人の登録が月20名ほどの登録に増加。	

熊本県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献血時に献血者に対して、複数回献血への協力を依頼すると共に次回献血可能日を記入して渡していたため、複数回献血に繋がった。（現在は献血カードに表記される。） ・ 固定施設での複数回献血と献血者増加対策を目的としたバースディカードの送付。（ルームで献血されて6ヶ月以上献血間隔がある人を対象に送付した。） <p>◎平成21年5月からの継続実施成果（H21.5～H22.1） 発送者 10,613人 献血協力者 912人 応諾率 8.6%</p>	
大分県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数回献血クラブへの加入勧誘 ・ ダイレクトメールによる協力依頼 	
宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記念品配布（記念品タオル：県購入分）による成分献血登録推進の実施 2月 88人、3月 45人（通常 20人程度） 	
鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の緊急雇用対策事業（採血業務等補助事業）を活用した複数回献血クラブ会員の加入推進 ・ 複数回献血クラブ会員への献血依頼メール内容の見直し 具体的には、イベント案内や健康相談に加え、献血者にメリットのあるメール（新作DVD、新刊本案内、記念品用パスワード）に見直した。 	<p>複数回献血クラブ会員への献血依頼メール 献血依頼主体のメールでは、会員にとってのメリットがほとんどなかった。（メールの受信により費用負担が発生する場合もある。）</p>

沖縄県	<ul style="list-style-type: none">・ 複数回献血クラブへのサービスの充実（足つぼマッサージ等）・ ハガキやメールにて近所で実施される出張献血への案内を送付する。 初回献血者へ2回目献血チャレンジキャンペーンハガキを郵送。3ヶ月間で249名/2700名。	
-----	--	--

別紙様式 4

ブロック名 九州

3. 23年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	23年度献血推進計画への記載を要望する事項 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
長崎県	高校献血の推進について、文部科学省と一体となって推進を行う旨の記載をしてほしい。	校内献血を学校長が受入れやすくするため。

2. 献血構造改革（平成17年度～21年度）の問題点及び今後の取組への課題

①若年層献血者数の増加

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
<p>島根県</p> <p>岡山県</p> <p>広島県</p> <p>徳島県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生を対象としたクイズ付きリーフレットの配布 ・成人式会場でのリーフレット配布による献血への協力の呼びかけ及び献血車の配置 ・島根大学、松江高専の音楽部定期演奏会の協賛と献血セミナーの実施 ・県内の大学において、4月を中心に新入生を対象とした学内献血を実施した。入学時に献血を経験していただくことにより卒業までの長期に渡り献血へ協力していただけた。 ・献血推進ポスター募集事業に対し、多数の中高生からポスター図案の応募があった。H21 年度応募数 284 人（中学生 251 人、高校生 23 人）。 ・高卒者全員に献血クリアホルダーを配布(約 25,000 枚)。 ・学園祭への移動採血車の配車 ・地元タウン誌と連携した広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校での学校内献血については、初めての献血を体験するきっかけとなる貴重な機会であったが、400m L 献血の推進のため、やむを得ず休止したため。

<p>広島県</p> <p>山口県</p> <p>徳島県</p> <p>香川県</p> <p>高知県</p>	<p>った企業等に対し、協力を依頼し掘り起こしを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町献血推進担当者会議を開催し、移動献血計画を策定した。 事業所訪問 計画的な配車計画による企業献血 ・献血未実施団体を調査し、比較的従業員数の多い事業所を訪問して新たな協力先を開拓した。結果、献血協力企業数は、平成17年度から20年度にかけて約1.6倍に拡大した。 ・団体、事業所、地域(消防団等)への協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりの希薄化や市町合併により、地域献血が徐々に衰退傾向にある
--	--	--

③複数回献血者の増加

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
<p>鳥取県</p> <p>島根県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血クラブ加入周知チラシを全献血協力者に対し、配布することにより、クラブ会員が増加した。(昨年の約3倍) ・手紙、メール、電話等による複数回献血者への協力の呼びかけ ・複数回献血クラブ勧誘パンフレットを献血者全員に配布して入会者を募集 ・複数回献血クラブ感謝の集いで入会者の募集と複数回献血のお願い 	

広島県	<ul style="list-style-type: none"> ・献血ルームにおいて、管理栄養士による健康相談を実施した。（比重不足、血圧等による不合格対策） ・複数回献血クラブ「eハート」の会員募集と、会員への情報提供を行った。 ・栄養指導のリーフレットを配布。 	
山口県 徳島県	<ul style="list-style-type: none"> ・献血会場でパンフレットを配布した。 ・複数回献血クラブへの会員登録を促進するため、タウン誌、リーフレット等の各種印刷物に、QRコードを掲載、携帯電話からの登録を簡易にすることにより、登録者の増加及び制度の周知に繋がった。 	
香川県	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニに複数回献血登録のPRチラシを設置するなど、啓発を行い、平成20年度における複数回献血者数の割合は、26%と17年度に比べて微増した。 ・ライオンズクラブへの継続的な献血啓発により、22年度において全クラブあげて複数回献血者登録制度のPRをしてもらえることとなった。 	
愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年3月から実施している複数回献血者の登録制度（リピートあいピー）について、より一層の広報媒体による周知や採血現場での勧誘によって増加した。 <p style="text-align: center;">H21 2月 1,526名 H22 2月 3,700名 (2174名増)</p>	
高知県	<ul style="list-style-type: none"> ・献血メールクラブへの登録の推進 ・献血時に複数回献血への協力のよびかけ 	

別紙様式 4

ブロック名 中国・四国ブロック

3. 23年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	23年度献血推進計画への記載を要望する事項 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
徳島県	・若年層に対して影響力の大きい有名人・スポーツ選手等を使ったメッセージ性の強いPR	

2. 献血構造改革（平成17年度～21年度）の問題点及び今後の取組への課題

①若年層献血者数の増加

<p>これまでの取組で効果がみられた事例 （具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。）</p>	<p>これまでの取組で効果がみられなかった事例 （普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校3年生への普及啓発用のジャンボ黒板消しの配布 ・ 映画館でのCM上映やラジオスポットCMの放送 ・ 学生ボランティアと連携したイベントの実施 ・ 入学オリエンテーション等を利用した大学生への献血への呼びかけ ・ 専門学校・短大で新入生の献血説明会の実施 	<p style="text-align: right;">富山県</p> <p style="text-align: center;">—</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の各大学において献血の実施（学園祭の時期には、全ての大学にて実施している） 	<p style="text-align: right;">福井県</p>

岐阜県

- ・ 大学内献血時、登校してくる学生に献血推進資料を配布。
（献血実施の告知だけのときよりも、効果があった。）
- ・ 学園祭実行委員会に働きかけ、学園祭献血時にご協力いただいた。

—

愛知県

学生クリスマス献血キャンペーン
親子血液教室

高校1年生及び新成人を対象とした啓発資材の配布
（若年層の興味を引くことができず、わずかしき献血者の増加がみられなかった。）

愛知県赤十字血液センター

大学でのグループ献血の実施。（4人1組の献血協力で飲料水を1ダースプレゼント）
宗教団体等の担当者を通じて、その組織の若年層を対象に啓蒙活動を行う。

三重県・三重県赤十字血液センター

学生献血ボランティアの協力を得て行った街頭献血キャンペーンでは、同年代からの献血協力が得られた。

<p>血液センターの近隣大学へ協力依頼し、体育会のクラブ・サークルで年2回の献血の実施。(5年目) 新設大学等へアプローチし、献血啓発の実施。(3大学1高校)</p>	<p>滋賀県</p>
<p>○ 18歳からの献血体験キャンペーン 卒業前に各高校卒業生を対象にリーフレットによる周知を行い、3月中に献血ルームで献血体験</p>	<p>京都府</p>
<p>毎年度、献血を題材とした作品募集事業を実施。毎回、応募者の約20%が10代、20代であることから、若年層に対して、献血意識の普及啓発ができたと考えている。</p>	<p>大阪府 「初めての400mL・成分献血」キャンペーン(1月～2月)を固定施設において実施したが、試験期間中等の原因であまり効果がなかった。</p>
<p>高校生献血推進ボランティア事業：献血の現状及び必要性等を理解してもらうことができた。</p>	<p>兵庫県</p>
<p>県下の高校3年生を対象に学校を通じ献血啓発用チラシを配布し献血ルームや移動採血バスでの献血協力を促した。 H21 16歳 315人 17歳 415人 18歳 1,162人 19歳 1,519人</p>	<p>兵庫県赤十字血液センター</p>

奈良県

大学献血において、記念品（カップ麺、ペン立て、カードケース等）の提供をした。（センター事業）

学生が学生へ呼びかけることが重要であり、学祭等のイベントに合わせた献血バス配車時に、学推協の協力を得て呼び掛け等の啓発を実施。（県事業）

和歌山県

- ・ 高校の生徒を対象に外部講師を招き、体験談を交えて献血の重要性を語ってもらう「高校生献血学習」を行い、後日献血体験を行った。（県・血液センター）
- ・ 県学生献血推進協議会主催によるキャンペーンの実施（県縦断キャラバン隊ラッキー777献血キャンペーン）
平成21年12月5日から平成22年1月17日の間県下7ヶ所で、献血キャンペーン実施時に同時に献血を行ったところ、10代の献血者の占める割合が10.1%（通常は、3.8%）と多かった。（血液センター）
- ・ 月1回実施している献血ルームのイベントで、ネイルアートや占いの日は特に人気があり、若い人（特に女性）の献血が増加している。（血液センター）

②安定的な集団献血の確保

<p>これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)</p>	<p>これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)</p>
<p>・献血場所付近の企業への献血協力依頼。</p>	<p>富山県 —</p>
<p>地域の消防団、建設業協会の協力。</p>	<p>石川県</p>
<p>・各市町から一定人数の成分献血実施者を確保し血液センターまで送迎を実施している（市町担当者に協力依頼している） ・ライオンズクラブ担当者に対し献血に関する研修会を開催する他、ライオンズクラブ主催の献血を実施し、安定的に献血者の確保を図っている</p>	<p>福井県</p>
<p>ぎふ献血サポーターズクラブの街頭合同献血の実施。</p>	<p>岐阜県 —</p>
<p>知事感謝状の贈呈</p>	<p>愛知県</p>

愛知県赤十字血液センター

献血を実施して頂く団体に献血会場への立ち入りの許可を得たうえで近隣の事業所にも献血協力を依頼することで1ヶ所での協力を得る。

三重県・三重県赤十字血液センター

主となる事業所がない地域では、役場・出張所等を4～5箇所廻っても、1車目標数の確保が難しい。
ポスター、チラシ、町内放送、当日の現場PR送迎等を出来る限り行っているが、過疎地により献血対象者が少ないため限界がある。

滋賀県

企業、事業所での献血は概ね安定して実施してきた。
大型のショッピングモールの新設と企業の協力を得て新たな献血会場を確保できた。

京都府

○ 献血会場周辺企業に対する献血協力の推進
複数献血会場において献血協力者増加

<p>① 毎月第一水曜日に定例府庁前献血を実施し、血液不足時には臨時献血も実施している。(21年度実績：17回、735人)各市町村庁舎、自衛隊等においても定例的に献血が実施されている。</p> <p>② 高級ホテルの協力で、会場の提供及び紅茶、ケーキ等のもてなしをいただき、好評であった。(献血実績：平成17年度：2回77名、平成18年度：3回311名、平成19年度：2回104名、平成20年度：2回129名、平成21年度：2回130名)</p>	大阪府
---	-----

血液の不足しがちな時期に合わせ、企業・団体へ文書による協力要請を呼びかけている。	兵庫県
--	-----

行政担当者、ライオンズクラブによる企業献血の推進強化、献血担当部署への事前渉外活動の充実及び受付時間等の調整	兵庫県赤十字血液センター
--	--------------

年3回(4・8・12月)及び緊急時に県庁献血を実施。定例献血場所の確保。	奈良県
--------------------------------------	-----

<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的協力団体等に、知事感謝状の贈呈を行った。(県) ・ 大口の団体に対し配車台数を増やす、受付を増やす、献血者の誘導等で待時間を短縮したことにより相手側も血液センターに対し理解が深まり呼びかけの積極度が増した。(血液センター) 	<p>和歌山県</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業や団体の献血では、従業員等の減少などにより、献血者が減少してきているところがある。(血液センター)
---	---

③複数回献血者の増加

これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
富山県	
<ul style="list-style-type: none"> ・比重不足などで献血できなかった方への保健師による健康相談の実施 ・複数回献血クラブ会員募集及び会員募集イベントの開催 	—
福井県	
<ul style="list-style-type: none"> ・成分献血について、ポイント制報償制度を導入し、複数回献血者の確保を図っている ・初回献血者に対して血液センター所長名で礼状を出し、年内に再度、献血をしていただいた方に記念品を提供している 	
岐阜県	
同一企業への複数回の配車依頼、新規献血者に対する啓発。	—
静岡県	
<p>複数回献血クラブの登録者数が着実に増加している。 (H19.4時点：1,261人 ⇒ H22.3時点：6,352人)</p>	
愛知県	
<p>複数回献血キャンペーン (実献血者の複数回献血者の推移は、25% (18年度)、26.5% (19年度)、27.2% (20年度)であった。)</p>	

<p>年間1回だけの献血協力団体に対し、年間2～3回の献血協力をいただくことにより複数回献血者が増加した。</p>	<p style="text-align: right;">愛知県赤十字血液センター</p> <p>複数回献血をお願いするため、年2回の協力を3回に増やしたが、特に女性の多い職場では年間採血量の問題から3回目の献血協力者が減ってしまった。</p>
---	---

	<p style="text-align: right;">三重県・三重県赤十字血液センター</p> <p>複数回キャンペーンについて、ポスター、FM放送等でPRを行ったが、単年度では献血者への浸透がまだ不十分であったため、効果が得られなかった。引き続き、継続することによって献血者数の増加を図りたい。</p>
--	---

<p>献血後に複数回献血クラブの紹介と登録の勧誘を行ってきた。平成21年度は163名の新たな登録者を得た。(現在の会員数897名)</p>	<p style="text-align: right;">滋賀県</p>
---	---------------------------------------

<p>○目標値を設定したうえ、登録強化週間を年4回実施 目標値をクリアするようになった。</p>	<p style="text-align: right;">京都府</p>
--	---------------------------------------

大阪府

- ① 毎年度、献血の推進に多大なご協力をいただいた団体及び個人を対象に、「大阪府知事感謝状贈呈式」や「大阪府献血感謝のつどい」といった表彰式典を開催。
- ② 府内献血固定施設（門真ルームを除く。）の成分献血ポイントキャンペーンを実施。（実績：平成21年度10月～4、500名にカード配付。）
- ③ 府内固定施設において、400mL プラスワンキャンペーンを実施。（平成21年度10月～カード配付。次回献血可能日の1カ月後。）
- ④ Eメール会員登録した献血者及び新規会員を紹介した会員に記念品を進呈し、Eメール会員の増強を図った。（新規会員年間目標10,000人達成。総会員数約22,600人。）

兵庫県赤十字血液センター

複数回献血クラブ会員の募集、会員への情報誌の発行及び健康体操教室等の実施
 H21年度 再来率88.3% (H20年度87.8%)

奈良県

ホップステップジャンプキャンペーンの実施。
 複数回献血クラブに入会した方に、次回からの献血毎に3段階で記念品を進呈する。
 （実施により、会員数が1,751名増加した：11か月間）

和歌山県

- ・ 献血統一システムでの検索による過去献血者（平成16年1月以降）へ毎年ハガキによる献血依頼。（血液センター）
- ・ 複数回献血メール会員になることのメリットを、チラシだけでなく口頭でも説明して勧誘した。（血液センター）

- ・ 健康相談や栄養相談を行ってきたが、直ちに効果が出るものではないので、効果があったか判断できない。（血液センター）

別紙様式 4

ブロック名 東海・北陸・近畿地区

3. 23年度の献血推進計画への記載を要望する事項

23年度献血推進計画への記載を要望する事項。 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
高等学校における積極的な献血推進	<p style="text-align: right;">愛知県</p> <p>平成21年7月に「高等学校指導要領解説保健体育編」に献血に関する記載がされたことや平成23年4月から男性の400mL献血の下限年齢が17歳まで引き下げられることを考えると、特に高等学校において献血思想の普及啓発及び献血推進運動を積極的に展開するべきであると考えます。</p>
ボランティア研修会の実施等、ボランティア団体の育成についての国の協力体制についての記載を希望	<p style="text-align: right;">兵庫県赤十字血液センター</p> <p>献血推進を行っていくうえで、ボランティア団体の協力が欠かせない現状で、ボランティア団体に知識を深め、適切な情報を提供するための支援(研修会の開催等)についての助成を希望するため。</p>
市町村の協力は必要不可欠であり、市町村への協力を仰げるようなもっと明確な計画を盛り込んで頂きたい。	<p style="text-align: right;">奈良県</p> <p>市町村では献血の予算がついてないところが大半であり、キャンペーン等でも市町村の協力が乏しい。</p>

・ 年数のあいた献血者への呼びかけ。

(血液センター)

・ 年々血液の使用量が増加している現状で、国から示された血液量を確保することが難しくなっている。過去に1回でも献血経験のある者は献血をすんなり受け入れてくれる可能性がある。

(血液センター)

2. 献血構造改革（平成17年度～21年度）の問題点及び今後の取組への課題

①若年層献血者数の増加

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> ○学生主催のキャンペーン（着ぐるみやクイズ等の実施） ○地元J2サッカークラブとのキャンペーン（ファンクラブの協力と少年サッカーチームの参加） 	
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ○成分献血ポイント制の実施（通年） ○季節イベント：クリスマス・バレンタイン・ホワイトデー ○固定施設イベント：ネイルアート・リラクゼーション・ハンドマッサージ ○固定施設サービス：カップアイス配布 ○期間限定グッズ配布 ○シネアド、バスボディ広告の実施 	
群馬県	<ul style="list-style-type: none"> ○県内のプロスポーツチームとの連携による推進。推進ポスターへの選手起用及び献血応援試合の開催。 ○はたちの献血キャンペーンイベントへの選手派遣。 ○大学、専門学校における処遇品を学生向けに（ドーナツ）に変更した事で協力者数増加。 	

埼玉県	<p>○卒業献血キャンペーン(毎年度2月1日から4月30日実施)は、期間中、年々献血者が増加している。</p> <p>平成21年度はキャンペーン期間中、初めて広報ポスターを作成し、記念品を掲載したところ献血者が増加した。</p> <p>(H17:78人 H18:240人 H19:401人 H20:412人)</p> <p>○高校校内献血</p> <p>平成18年度87校だったところ、各校長に協力を呼びかけて平成19年度には117校が実施した。しかし、1校当たりの献血希望者が減少し、平成18年度9,832人受付と平成19年度9,863人受付とほとんど変化がなかった。以降、献血受付者数が減少している。献血への興味をもたせる活動(出前講座、授業)が必要と考える。</p> <p>なお、高校生献血者数については、平成19年から全国第1位となった。</p>	
千葉県	<p>【血液センター】</p> <p>○小学生献血学習会については例年、定員を満たす応募があり将来的な献血への繋がりが思慮される。</p>	<p>【血液センター】</p> <p>高校献血協力校において献血ルーム等での卒業献血依頼を行ったが、集団献血と違い個々に於ける献血に対する意識の低下が見られた。</p>
東京都	<p>○大学献血において、ペアやグループ献血の推奨。(学域献血での受付者数は25,000人以上)</p> <p>○大学・専門学校等での実施回数増加。献血センター等の施設 見学の実施。</p> <p>○携帯メールクラブの会員案内と情報提供。</p>	

<p>神奈川県</p>	<p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元プロスポーツ球団と協力したPR <ul style="list-style-type: none"> ・世界赤十字デーを契機とした、横浜スタジアムにおける赤十字活動PR ・ルールの移転・改修時における共同イベントの開催 ○地元マスコミとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんに出演いただいた啓発ポスターの作成（ラジオで募集） ・FM放送におけるラジオ番組の作成（毎週火曜日） ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・着ぐるみによる広報 <p>【効果】</p> <p>5箇年計画の中で20代の献血率（人口に占める献血者数の割合）が5.5%から5.7%に上昇。</p>	
<p>新潟県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高等学校への献血バスの配車 （H17年度2校からH21年度4校へ増加） ○高等学校における献血普及講演会の実施 （H17年度3校からH21年度9校へ増加） 	
<p>山梨県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○啓発活動は行っていますが、数値による評価は行っていません。 	

長野県	○配布または送付した啓発用パンフレットやポケットティッシュ、献血依頼のハガキを持参した献血者に粗品を差し上げたところ、特に若い献血者に好評だった。【血液センター】	
-----	---	--

②安定的な集団献血の確保

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
茨城県	○新規事業所等の開拓(36ヶ所 944名の協力) ○休眠状態の事業所の開拓(17ヶ所 302名の協力)	
栃木県	○祝祭日におけるショッピングモールでの献血実施 ○生命保険協会「愛のふれあい1000人運動」の実施	○献血協力団体や献血場所提供者は献血を実施すること自体は協力的でも、献血者を確保する方法や手段がなく、献血者数が伸びない。新規の団体や献血場所での周知不足。
群馬県	○新規企業への訪問。 既存献血団体の実施時期等を精査し実施回数増への誘導。 ○ライオンズクラブ等の推進団体との連携強化。	
埼玉県	なし	
千葉県	【血液センター】 ○献血の実施時期、献血者の状況の精査を行い可能な限り実施回数の増加を図り、新規献血協力企業・団体の確保、臨時要請可能な企業等の確保により輸血用血液不足時の対応を行った。	

東京都	<ul style="list-style-type: none"> ○既協力企業・団体の増回、掘り起こし、不足する時期に合わせた実施時期の見直し。都が協力依頼文を作成し、血液センター担当者が各企業や官公庁へ持参のうえ協力を依頼。(全 83 団体に依頼し 25 団体実施可能、30%、それ以外は継続中) ○CSR 活動を積極的に行っている企業の確保(ホームページなどで、CSR 活動を行っている企業の情報を収集し、渉外につなげる) 	
神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> ○献血実施企業に対する年間複数回依頼 ○ルーム周辺企業を対象としたキャンペーンの開催 	
新潟県	<ul style="list-style-type: none"> ○協力企業等に対して感謝の意を表すとともに、継続的に協力していただくことを目的として、地元新聞に協力企業名を掲載 ○「献血協力カード」を利用した団体からの協力 	
山梨県	<ul style="list-style-type: none"> ○啓発活動は行っていますが、数値による評価は行っていません。 	
長野県	<ul style="list-style-type: none"> ○献血固定施設近隣の官公庁や企業等の協力を得て、計画的・定期的に送迎を行い固定施設で献血してもらうことで、在庫が不足しがちな時期など緊急時に対応している。【血液センター】 	

③複数回献血者の増加

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> ○複数回献血クラブの活用(27,439件依頼 応諾率19.8%) ○事業所等の複数回実施(28ヶ所 721名の協力) 	○冬季に400mL献血を誘導するキャンペーンを実施したが、各種の統一キャンペーンと重なり薄れてしまった。
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ○期間限定グッズ引き換え券配布を年数回実施 ○メールクラブ会員への成分献血ポイント付加 ○固定施設イベント：ネイルアート・リラクゼーション・ハンドマッサージ 	○講演会(健康セミナー)を実施したが献血対象者ではない方が多く参加し、献血に直接つながらなかった。
群馬県	<ul style="list-style-type: none"> ○献血メールクラブを活用し、キャンペーンや血液不足等の情報提供を行い、複数回献血へ誘導。 ○過去1年以内の献血回数が1回の献血者に対し、献血会場案内のDMを毎月発送。 	
埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> ○携帯メールクラブ会員の増加により、複数回献血者が増加した。 平成21年9月～22年3月までの6ヶ月間を「携帯メールクラブ」新規会員募集キャンペーン期間として実施したところ、携帯メールクラブ会員は12,657人から19,149人に増加した。複数回献血者も、それに伴い増加した。 (平成20年度43,116人→平成21年度46,415人) 	

千葉県	<p>【血液センター】</p> <p>○献血要請葉書を毎週発送し、成分献血は年間約86,000通発送し応諾率24.9%、全血献血は約121,000通発送して7.9%の応諾率であった。</p>	
東京都	<p>○複数回献血クラブ会員限定「ポイントキャンペーン」の実施</p> <p>複数回献血クラブシステムの機能を活用し、平成21年9月以降、献血ごとに一定ポイントを付加する「キャンペーン」を行うことにより、会員確保並びに複数回献血への誘導を行った。</p> <p>今年度は「ポイント制」として継続実施を予定している。なお、詳細な検証について、併行して実施することとしている。</p>	
神奈川県	<p>【事例】</p> <p>○登録者への定期的依頼とネーム入りオリジナルストラップなど、特別感のあるサービスの実施。</p> <p>○平成21年度内に、献血ルーム2箇所のリニューアルおよび1箇所の移転を実施。</p> <p>【効果】</p> <p>○県内で16台のベッドを増床したことで待ち時間が解消され、前年度比でルーム献血者数が2万2千人以上増加した。年代別にみると、5箇年計画によって20代から60代までの献血率がすべて上昇しているが、特に40代は平成17年度の5.3%から平成21年度は6.7%、人数換算で約2万6千人の増加となった。</p>	

新潟県	○献血推進協議会に対する複数回献血の要請 ○前回献血から6か月経過した献血者へのDM送付 ○献血メールクラブ会員への献血要請	
山梨県	なし	
長野県	○移動採血車による献血の場合、年に1回の実施会場に対して複数回の実施を依頼することで、複数回献血者が増加した。 また、定期的に献血依頼のハガキを送付することも効果があった。【血液センター】	

3. 23年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	23年度献血推進計画への記載を要望する事項。 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ○新規協力団体・企業の確保及び休眠団体への働きかけ ○検診医師の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○企業の撤退及び閉鎖による献血者確保が困難である。 ○研修医制度導入により医師の確保が困難である。

2. 献血構造改革（平成17年度～21年度）の問題点及び今後の取組への課題

①若年層献血者数の増加

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
北海道	・年に1～2回、看護学校や大学への勉強会を開催し、学生への意識付けや動機付けにより、成分献血者数が増加した。	
青森県	・ファッション甲子園の写真展実施(16～29歳の献血者構成比率37.0%にアップ)	・成人式場での献血実施及びチラシ配布(時間、晴れ着等の関係)
岩手県	・平成17年度に本県の献血マスコットキャラクター(ココロンちゃん)を制定するなどした若年層献血推進への取組。 ・民放FMラジオ局とタイアップし公開録音を行い、その模様を後日オンエアした。	

秋田県	<ul style="list-style-type: none"> ・大学献血について、センターの職員が当日協力者を確保していたが、各大学の学生献血推進協議会の委員による事前の呼びかけを実施した結果、協力者数が増加した。 ・高校卒業時に5ポイント（200mL:1p, 400mL と成分:2p）以上協力した生徒に血液センター所長感謝状を贈呈。 	
山形県	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらんぼ献血予備隊の育成（県） 中学生（主に3年生）に、献血の仕組みや必要性について啓発を行い、早いうちから献血への理解を深めることができた。 ・学生献血協力サークルの育成（県・血液センター） 大学のサークルの協力を得て、献血者不足の情報提供及び献血希望者の募集等を行う体制を構築した。 	
宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ・大学構内での呼び込み及び送迎（血液センター） ・宮城県赤十字血液センター主催により、小学生及びその保護者を対象にした「けんけつKID'Sサマースクール」及び、大学生等を対象にした「献血出前講座およびセミナー」を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広く若年者に啓発するためには、学校の授業で「献血」を取り上げるように促すことが重要であるが、教育現場での理解を得るのが難しい。また、教育現場における普及啓発のためのシステム構築が未整備である。
福島県	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を対象とした「ジュニア献血ポスターコンクール」の開催。 ・応募状況：H21年度：79校(584作品)、H20年度：73校(545作品)、H19年度：57校(293作品) 	<ul style="list-style-type: none"> ・10代、20代を献血者全体の40%までに上昇 ※県の実績 H18年度：27.8%、H19年度：25.3%、H20年度：24.7%

		<p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の動機付けにもなるので、高校献血の推進は大切。 ・高校等に通いよく説明して献血への協力を求める努力が必要。 ・学生が学生に協力を呼びかけると効果が上がるので、そのような学生のリーダーを見つけることも大切。
--	--	--

②安定的な集団献血の確保

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学に合わせ献血協力ができるよう学校又は各団体と調整し実施している。(看護学校等の新人研修) ・大学の各サークル(特に運動部)において、献血協力時の他に定期的な意見交換会をする等、常に献血が必要であること意識づける。 	
青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・青森市 PTA 献血の実施(授業参観日や文化祭に献血バスを配車) 	

岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問による協力事業所の開拓への取組。 岩手県遊技業協同組合青年部会の協力 岩手県アスファルト合材協会の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内一定規模以上の企業の殆どに協力依頼済みであり、今後飛躍的な協力企業の確保は困難である。献血率の向上推進等にシフトする方法が有効と思われる。 ・メーデー（5/1）献血 主催者側から参加者が多数とのことで献血バスを配車したが、デモ行進終了後ほとんどの参加者は宴会となり、献血協力者が少なかった。
秋田県	<ul style="list-style-type: none"> ・協力企業に対し「献血サポーター」への加入を勧めている。 ・血液センターでは、協力事業所の都合のいい時間に合わせるため、場合によっては少し遅い時間まで受付時間の延長、あるいは朝早い時間にも対応している。 ・血液センター発行の情報誌に献血サポーターに加入している企業の社長からの話として、献血サポーターに加入する意義や社会貢献する内容を記事として掲載した。 	
山形県	<ul style="list-style-type: none"> ・定点献血の実施（血液センター） ・送迎体制の確保（血液センター） 献血ルーム近辺や、近隣市町役場職員の送迎で献血者を確保した。 	
宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁内及び合同庁舎において定例献血を行い、県職員に対し献血を呼びかけた。（県庁内では定例献血を3回実施し、平成21年度は297名確保した。） 	

福島県	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所訪問時に保健所、血液センター、市町村職員とともに地元高校生がボランティアで一日献血大使として参加、事業所を訪問して献血のお礼とパネルを作成して事業所に置いてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は、新型インフルエンザの影響により予定していた事業所からキャンセルが相次ぎ変更を余儀なくされた。
		<p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・献血サポーターの加入を促進するため、既に参加している企業の献血への考え方等を他の企業にも紹介する等の工夫が必要と思われる。

③複数回献血者の増加

都道府県名	これまでの取組で効果がみられた事例 (具体的にどのような反応が得られたか。数値として表すことが可能であればあわせて記載。)	これまでの取組で効果がみられなかった事例 (普及啓発の対象者の意見を含め、その取組がなぜ効果がなかったのかを記載)
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・血小板の需要増により 2009 年 9 月から 3 ヶ月間成分献血キャンペーンを実施、北海道に多数ファンを持つ日ハムグッズの処遇品を回数ごとに記念品として提供、4 回目で人気グッズを差上げることで献血者増に結びついた ・(前年同月対比、血小板献血 103.9%、血漿献血 124%) ・平成 19 年から始めた「また来てね献血」カードによる促進で複数回献血に結びついている。(持参率 H19=34% H20=44% H21=48%) ・メールクラブの登録者についても年々増加傾向にあり、特に会員への献血要請時の応諾率は約 15%と高く(封書要請約 5%)今後も引続き登録 	

	募集を継続予定。(登録状況:H18年度652名、H19年度1,127名、H20年度1,489名、H21年度2,942名)	
青森県	・複数回献血クラブ会員限定のイベント(マッサージ等)を実施し当日入会を可能とし、その場で入会する人が増加した。	
岩手県	・ホームページでの周知や献血会場での登録の推進を行っているが、急な需要に対し、応諾率が高かった事例があった。	
宮城県	・庁内献血で複数回献血を呼びかけリピーターを確保している。葉書等での呼びかけ。	

別紙様式 4

ブロック名 北海道・東北

3. 23年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	23年度献血推進計画への記載を要望する事項 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
	特になし	

学生ボランティアの活動について

1. 全国学生献血推進実行委員会について
2. 宮城県青年赤十字奉仕団の活動について
3. 全国の学生ボランティア活動の紹介

全国学生献血推進実行委員長

早坂 樹

1. 全国学生献血推進実行委員会について

□全国学生献血推進実行委員会とは??

<組織>

日本赤十字社 ← 献血協力ボランティア団体 (全国学生献血推進委員会・ライオンズクラブ・天理教など…)

<組織体系>

全国学生献血推進実行委員会

⇒全国7ブロックに分けられ、ブロックの学生ボランティア代表者数名で構成されている

・北海道ブロック	・宮城ブロック	・東京ブロック	・愛知ブロック
・大阪ブロック	・岡山ブロック	・福岡ブロック	

平成22年度全国学生献血推進所属団体合計 ⇒208団体
所属人数合計 ⇒4501人

<委員会を設置する目的>

学生相互の意見交換及び主に若年層に対して献血推進及び献血思想の普及に寄付することを目的とする。

<活動>

1. ブロック間の意見交換及び評議と全国の献血推進計画
2. 他の献血推進団体との連携協力活動
3. 委員会の目的達成に必要な活動
4. 都道府県学生献血推進組織の名称・所属人数の把握
5. 全国学生統一献血キャンペーンの企画立案

<平成22年度実行委員会活動 日程>

第1回全国学生献血推進実行委員会 5月29日(土)～30日(日)
第2回全国学生献血推進代表者会議 8月9日(月)～11日(水)
第3回全国学生献血推進実行委員会 平成23年度3月予定

2. 宮城県青年赤十字奉仕団について

□宮城県青年赤十字奉仕団とは??

<組織体系>

東北福祉大学を基板に宮城県内の大学・専門学校生・社会人で構成される

その中でも、老人福祉サークル・青少年サークル・点字サークル・献血サークルの4つのサークルに分かれる。

<献血サークルの主な活動>

- ・学内献血
- ・夏の東北ブロック統一サマーキャンペーン
- ・全国学生献血クリスマスキャンペーン
- ・東北ブロック会議
- ・全国学生献血推進実行委員会

<夏の東北ブロック統一サマーキャンペーン>

8月に数日、東北6県統一で行われる。夏の血液不足を補うために大型店舗や献血ルーム前で呼びかけやティッシュ配り、処遇品配りなどをする。大型店舗で行うときは、献血バスやテントに夏らしく装飾をして浴衣を着たり、献血ルーム前では法被を着て盛り上げる。小さい子供たちと遊ぶキッズコーナーを設置したり、かき氷を配布したりなど県によって様々な工夫を凝らしたイベントを行っている。

<全国学生献血クリスマスキャンペーン>

12月に数日行われる。このキャンペーンは、全国の学生主催で行っている。このキャンペーンを実施するために、各ブロックごとの会議や、全国学生献血推進実行委員会で、他の県の学生と様々な意見を交わしながら活動内容を考える。学生同士で熱い議論を交わしキャンペーンを成功させようととても活発に活動している。会議で決めたポスターや処遇品、統一企画などをクリスマスキャンペーンで活用している。

<東北ブロック会議>

東北6県の代表者が集まって、サマーキャンペーンやクリスマスキャンペーンのイベントや企画などについて話し合う。結果報告会も行う。

3. 全国の学生ボランティア活動の紹介（平成21年度）

□全国のサマーキャンペーン・クリスマスキャンペーン・その他の活動紹介

東京ブロック：にこにこ2525キャンペーン（採血者目標2525人）

宮城ブロック：献血協力100%達成プロジェクト（目標人数を100%として、現在何%に達しているかを資材にハート型に色や飾りをつけ、現在の献血協力数を分かりやすく表記）

岡山ブロック：他県のイベント視察のために他県キャンペーンに参加

茨城：バルーンアート・着ぐるみで呼び込み・センター見学会で学生意欲向上

栃木：キャンペーン時に大学のオーケストラ部による演奏会

千葉：千葉ロッテの選手を招いてのトークショー

東京：骨髄バンクの社員さんを招いての勉強会・手帳をボランティア内で配布

愛知：サマーキャンペーンでCMを作成。YOUTUBEにUP

岐阜：ライオンズクラブと共同で活動を実施・独自にTシャツを作成

福井：地元テレビで献血をPR

石川：ティッシュに献血日時などを記載して配布

三重：三重大学の応援団が参加しての呼び込みを実施

滋賀：キャンペーン時に独自のキャラクターの献血マンが呼び込みを実施

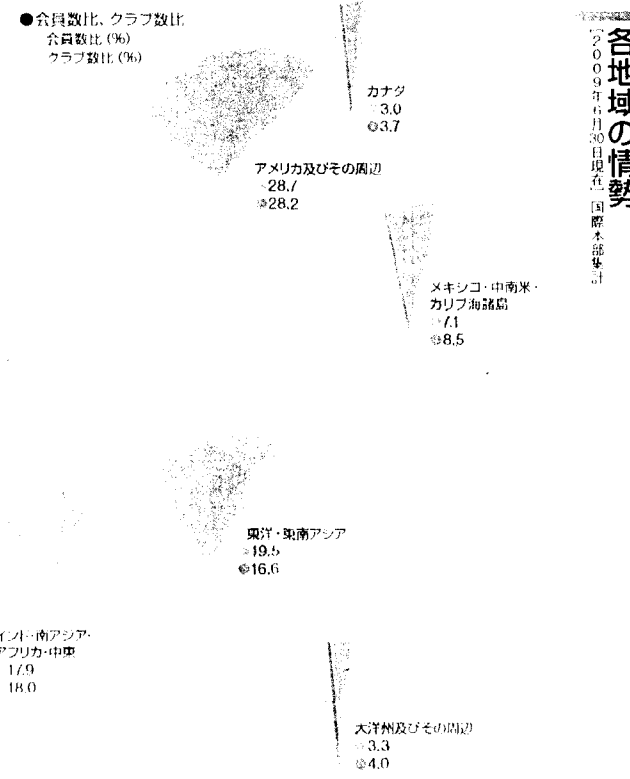
京都：ラジオ・ラジオCMに出演

熊本：8月に高校生向け勉強会を実施（グループディスカッション）

2008-09年度
ライオンズクラブ統計

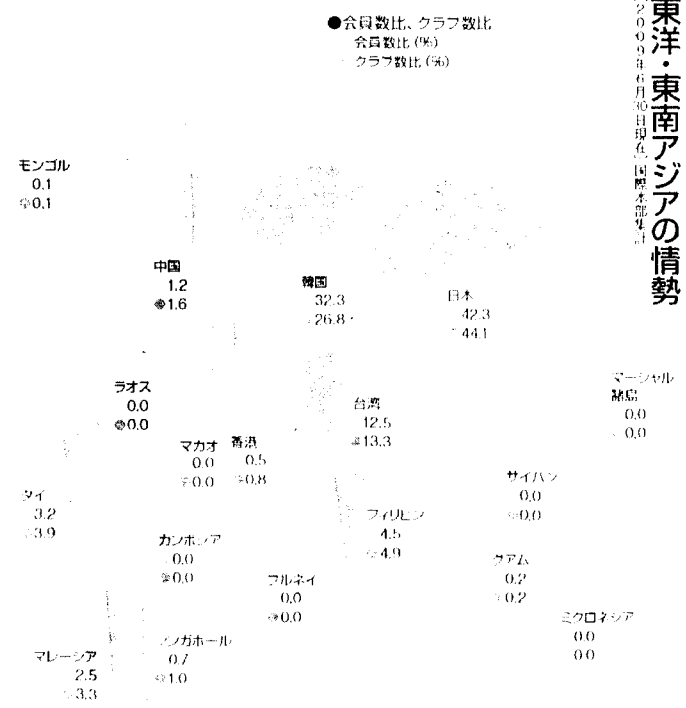
各地域の情勢
2009年11月30日現在 国際本部集計

世界と日本のライオンズクラブの情勢、クラブ・アンケート調査結果、アクティビティ年間集計を掲載



地域	クラブ数	結成	解散	純増減	クラブ数比	会員数	新入	退会	純増減	会員数比
アメリカ及びその周辺	12,865	239	317	-78	28.2	378,333	44,406	52,161	-7,755	28.7
カナダ	1,676	16	31	-15	3.7	39,753	4,381	4,790	-409	3.0
メキシコ・中南米・カリブ海諸島	3,877	136	156	-20	8.5	94,166	15,918	13,942	1,976	7.1
ヨーロッパ	9,589	161	124	37	21.0	270,341	21,760	23,152	-1,392	20.5
インド・南アジア・アフリカ・中東	8,231	900	352	548	18.0	236,560	60,520	37,374	23,146	17.9
東洋・東南アジア	7,562	225	151	74	16.6	256,949	41,369	43,778	-2,409	19.5
大洋州及びその周辺	1,853	31	41	-10	4.0	43,006	5,854	5,615	239	3.3
合計	45,045	1,705	1,176	529	100.0	1,318,908	194,208	180,912	13,296	100.0

東洋・東南アジアの情勢
2009年11月30日現在 国際本部集計



地域	クラブ数	結成	解散	純増減	クラブ数比	会員数	新入	退会	純増減	会員数比
シアム	14	0	1	-1	0.2	403	77	57	20	0.2
ミクロネシア	1	0	0	0	0.0	12	0	0	0	0.0
サイパン	3	0	0	0	0.0	35	11	6	5	0.0
マーシャル諸島	1	0	0	0	0.0	18	4	7	3	0.0
台湾	1,001	36	17	13	13.3	32,183	6,021	6,618	-597	12.5
フィリピン	369	28	13	25	4.9	11,495	3,576	1,970	1,606	4.5
香港	62	2	0	2	0.8	1,376	248	232	16	0.5
マカオ	2	0	0	0	0.0	50	5	4	1	0.0
マレーシア	245	6	3	3	3.3	6,462	873	863	10	2.5
シンガポール	71	0	0	0	1.0	1,727	215	254	-39	0.7
マル代夫	2	0	0	0	0.0	35	2	3	-1	0.0
タイ	296	9	6	3	3.9	8,190	1,362	1,569	-207	3.2
日本	3,337	15	62	-46	44.1	108,779	10,303	14,041	-3,738	42.3
韓国	2,025	80	43	37	26.8	82,965	17,084	17,742	-658	32.3
中国	123	42	6	36	1.6	2,974	1,511	585	1,126	1.2
モンゴル	7	2	0	2	0.1	158	74	19	55	0.1
カンボジア	3	0	0	0	0.0	59	3	8	-5	0.0
ラオス	1	0	0	0	0.0	46	0	0	0	0.0
合計	7,562	225	151	74	100.0	256,949	41,369	43,778	-2,409	100.0

主要10カ国の情勢
2009年6月30日現在 国際本部集計

●1クラブ当たりの入会者、退会者数

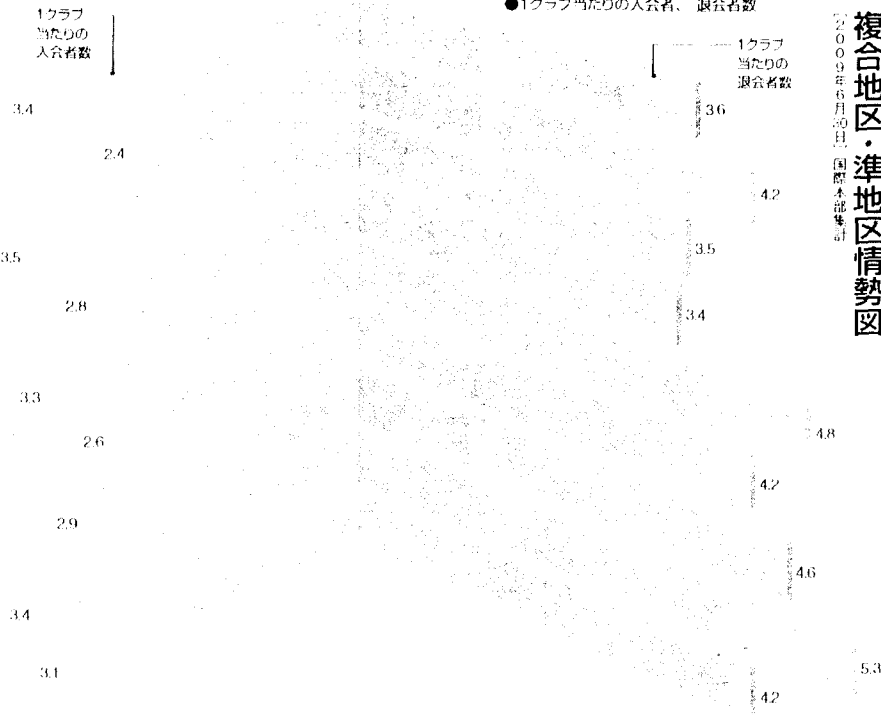
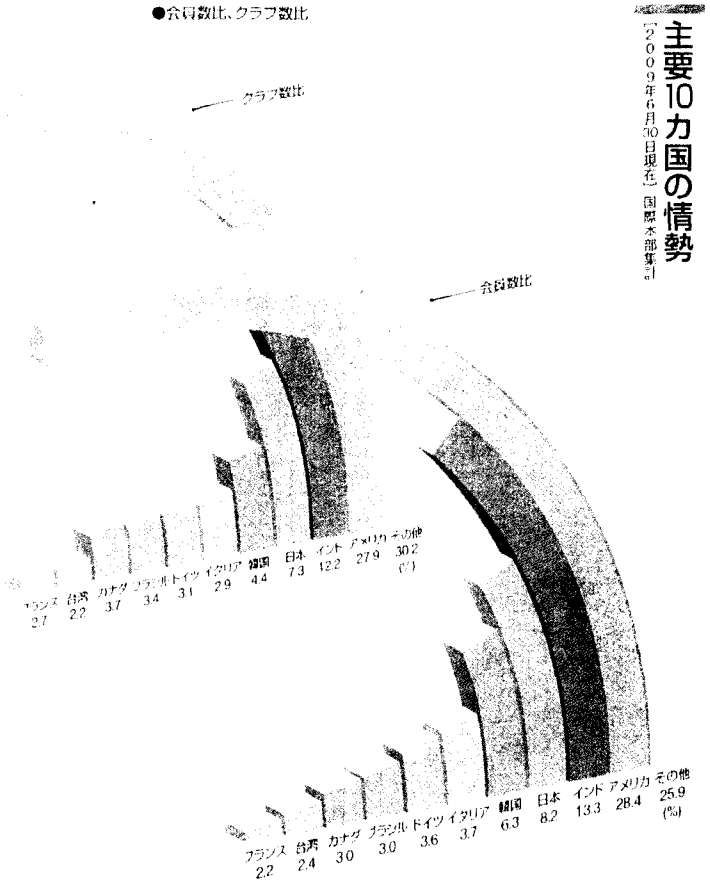
複合地区・準地区情勢図

2009年6月30日 国際本部集計

●会員数比、クラブ数比

クラブ数比

会員数比



複合地区・準地区	クラブ数	クラブ増減	会員数	会員増減	1クラブ当たり入会者	1クラブ当たり退会者	平均会員数	複合地区・準地区	クラブ数	クラブ増減	会員数	会員増減	1クラブ当たり入会者	1クラブ当たり退会者	平均会員数
330-A	200	-6	5,395	205	4.7	3.5	27.0	334-A	120	1	5,558	-208	3.4	5.4	46.3
330-B	188	-4	5,160	-75	3.1	3.5	27.4	334-B	85	-3	3,826	-98	4.3	5.5	45.0
330-C	102	-2	2,644	-194	1.6	3.5	25.9	334-C	83	-1	3,255	-116	2.8	4.2	29.2
小計	490	-12	13,199	-64	3.4	3.6	26.9	334-D	99	-2	4,111	-177	2.8	4.1	24.5
331-A	77	0	2,644	-100	3.3	4.0	24.3	334-E	53	0	2,141	-78	2.8	4.4	20.4
331-B	91	-2	2,589	-182	1.7	3.2	28.5	小計	440	-5	18,891	-677	3.3	4.1	22.9
331-C	59	2	1,842	-114	2.5	4.1	21.2	335-A	105	-4	2,756	-125	2.6	3.8	26.3
小計	227	-4	7,075	-396	2.4	4.2	21.2	335-B	204	0	6,300	-422	2.7	4.7	20.9
332-A	68	1	1,846	-148	1.7	3.2	27.1	335-C	122	-1	4,189	-217	2.1	3.3	24.3
332-B	55	0	2,110	380	10.8	3.0	28.4	335-D	67	1	2,156	-24	3.4	3.7	22.2
332-C	79	-4	1,487	-95	1.4	2.6	18.8	小計	498	-4	15,411	-788	2.5	4.2	30.9
332-D	77	0	2,056	-59	2.4	3.2	26.7	336-A	155	-1	5,910	-278	3.0	4.0	28.1
332-E	58	0	1,885	-49	2.9	3.8	32.5	336-B	97	-2	3,300	-249	2.5	5.8	24.0
332-F	52	0	1,363	-10	3.7	3.9	26.2	336-C	105	1	5,799	-116	3.1	4.2	26.2
小計	389	-5	10,747	19	3.5	3.7	27.6	336-D	105	-2	3,371	-140	3.0	4.3	32.1
333-A	79	-1	2,889	-144	2.4	4.2	36.6	小計	462	-4	16,380	-783	2.9	4.6	35.5
333-B	57	0	1,415	-8	1.9	2.1	24.8	337-A	118	-2	4,547	-198	3.5	5.2	38.5
333-C	134	-1	3,523	-71	2.6	3.2	26.3	337-B	80	-5	2,428	-227	3.3	6.2	20.4
333-D	57	2	2,127	71	5.0	3.8	37.3	337-C	85	-1	3,004	-137	3.5	5.8	25.3
333-E	82	1	2,965	-97	2.8	4.0	26.2	337-D	139	-5	4,178	-238	3.4	5.8	20.1
小計	409	1	12,919	-249	2.8	3.6	21.6	小計	422	-13	14,157	-800	3.4	5.3	33.5
								合計	3,337	-46	108,779	-3,738	3.1	4.2	32.6

	クラブ数	結成	解散	純増減	クラブ数比	会員数	新入	退会	純増減	会員数比
アメリカ	12,738	235	316	-81	27.9	373,978	43,863	51,553	-7,690	28.4
インド	5,586	631	197	434	12.2	175,465	43,589	25,571	18,018	13.3
日本	3,337	16	62	-46	7.3	108,779	10,303	14,041	-3,738	8.2
韓国	2,025	80	43	37	4.4	82,965	17,084	17,742	-658	6.3
イタリア	1,314	15	9	6	2.9	49,176	3,644	4,747	-1,103	3.7
ドイツ	1,419	23	1	22	3.1	47,735	2,856	1,978	878	3.6
ブラジル	1,574	56	24	32	3.4	39,757	7,153	5,036	2,117	3.0
カナダ	1,674	16	31	-15	3.7	39,700	4,380	4,788	-408	3.0
台湾	1,001	30	17	13	2.2	32,183	5,021	6,618	-597	2.4
フランス	1,239	15	17	-2	2.7	29,044	2,763	3,201	-438	2.2
その他	13,738	591	459	132	30.2	340,126	52,552	45,637	6,915	25.9
合計	45,645	1,708	1,176	532	100.0	1,318,908	194,208	180,912	13,296	100.0

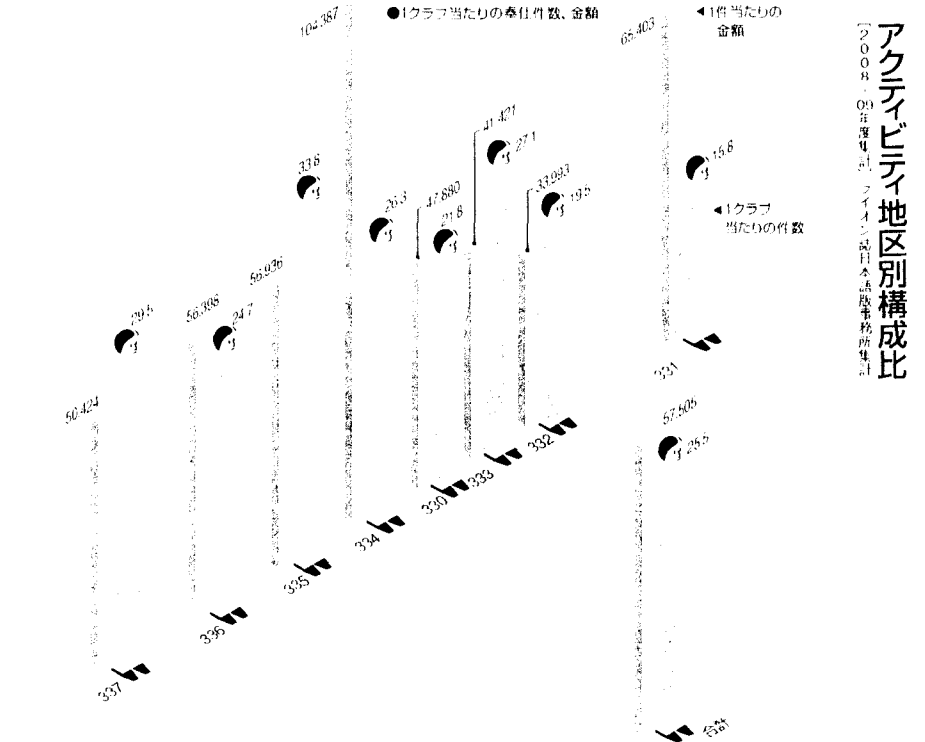
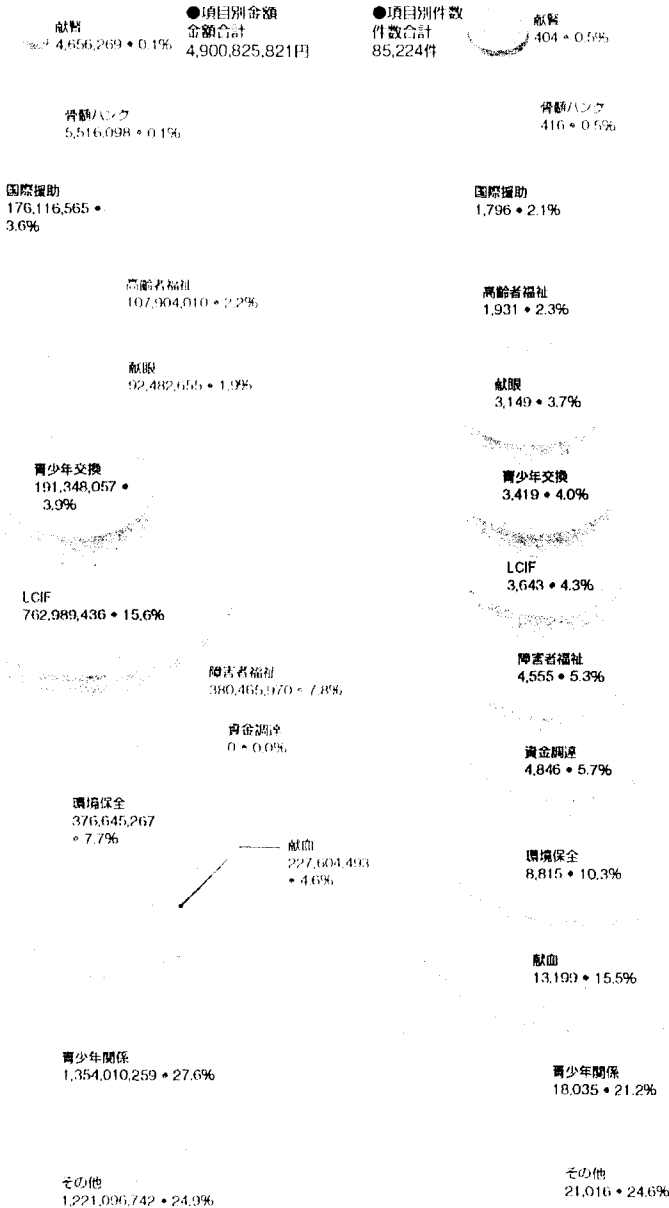
*年度末クラブ数・会員数には、スナタス・クロスを含む

アクティビティ地区別構成比

（2008年度のライオンズ国際事務局統計）

主要アクティビティ構成比

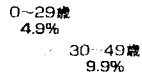
（2008年度のライオンズ国際事務局統計）



複合地区	準地区	件数	1クラブ当たり件数	金額	1件当たり金額	複合地区	準地区	件数	1クラブ当たり件数	金額	1件当たり金額
336	330 A	3,677	16.4	232,645,675	63,270	334	334 A	3,019	25.2	529,748,971	175,472
	330 B	4,901	26.1	199,468,725	40,709		334 B	2,368	27.9	252,800,574	106,799
	330 C	2,080	26.4	78,197,408	37,595		334 C	1,712	20.6	111,986,688	65,413
	小計	10,658	21.8	510,309,808	47,880		334 D	2,660	28.9	188,156,790	65,789
331	331 A	1,276	16.6	125,786,193	98,574		334 E	1,592	30.0	122,977,979	77,247
	331 B	997	11.0	69,967,369	70,178	小計	11,551	26.3	1,205,771,002	104,387	
	331 C	1,317	22.3	39,048,561	29,650	335	335 A	3,515	33.5	176,253,560	50,712
	小計	3,590	15.8	234,796,123	65,403		335 B	6,286	30.8	429,066,158	68,256
332	332 A	982	14.4	49,208,140	50,110		335 C	5,561	45.1	267,912,272	48,702
	332 B	1,198	20.1	44,708,712	40,351		335 D	1,550	23.1	84,260,171	54,361
	332 C	1,691	23.8	48,754,418	25,919	小計	16,852	33.8	959,486,161	56,936	
	332 D	1,568	20.4	49,272,388	31,424	336	336 A	4,597	29.7	220,442,203	47,953
	小計	5,339	23.6	234,463,639	43,926		336 B	1,827	18.8	122,657,653	67,136
333	333 A	982	12.8	16,625,569	25,076		336 C	2,716	25.9	195,548,231	71,999
	333 B	1,198	19.5	257,732,886	33,993		336 D	2,286	21.8	105,755,556	46,263
	333 C	1,691	26.2	62,647,292	39,636	小計	11,426	24.7	644,404,643	56,398	
	333 D	1,568	17.4	47,427,443	47,714	337	337 A	4,841	41.0	268,657,775	55,496
	小計	7,562	29.0	156,462,914	40,273		337 B	2,242	28.0	94,127,158	41,984
334	334 A	1,532	26.9	59,379,756	38,760		337 C	1,622	21.4	96,018,956	52,700
	334 B	994	31.9	114,351,557	43,696		337 D	3,562	25.6	169,831,347	47,679
	小計	11,098	27.1	459,689,952	41,421	小計	12,467	29.5	628,635,236	50,424	
						合計	85,224	25.5	4,900,825,821	57,505	

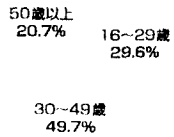
pick up

■年代別輸血状況



50歳以上
84.9%

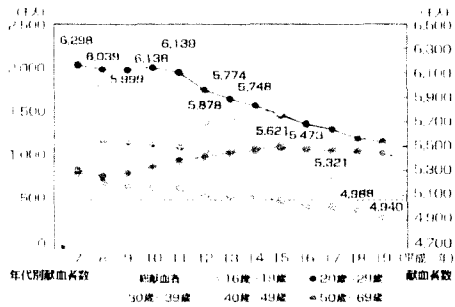
■年代別献血者数



(2007年東京都健康局調べ)

(2007年 全国)

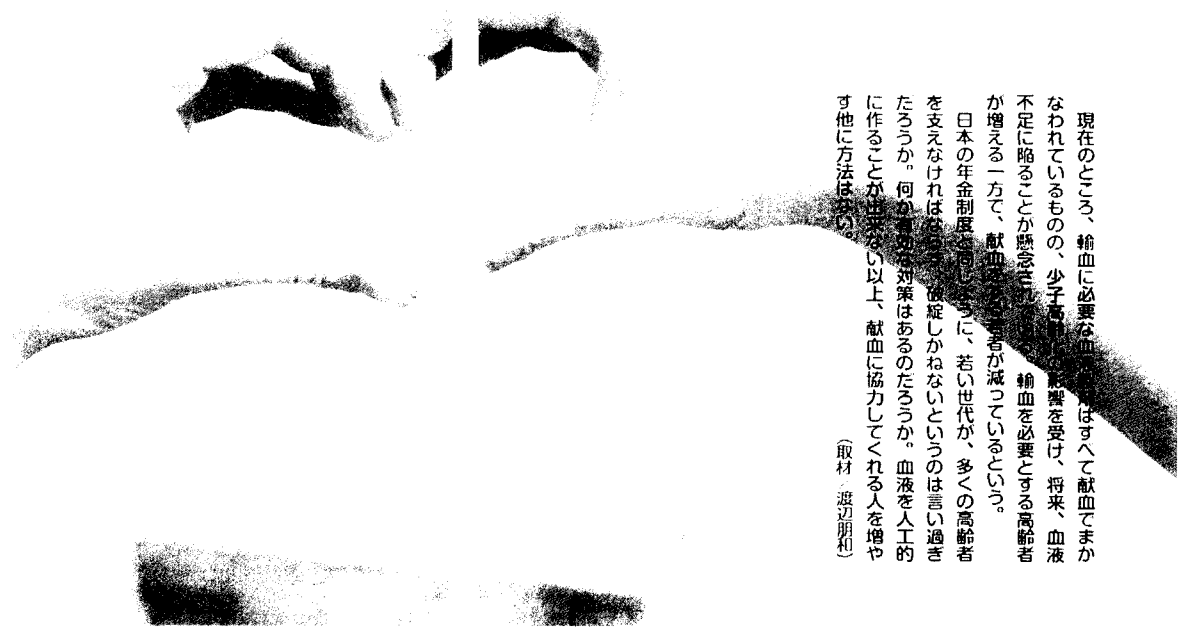
■献血者数の推移



pick up
ピックアップ

献血

少子高齢化で懸念される輸血用血液の不足。献血推進活動のこれから



現在のごとき、輸血に必要な血液はすべて献血でまかなわれているものの、少子高齢化の影響を受け、将来、血液不足に陥ることが懸念されている。輸血を必要とする高齢者が増える一方で、献血者数が減っているという。日本の年金制度と同様に、若い世代が、多くの高齢者を支えなければならぬ。厳正しかならないというのはいき過ぎだろうか。何らかの対策はあるのだろうか。血液を人工的に作ることも出来ない以上、献血に協力してくれる人を増やす他に方法はなさそう。

(取材：渡辺朋和)

安全な血液の供給のため、日本で献血の普及が始まった当初から、全国のライオンクラブは献血推進に力を注いできた。1999年には、前年に設置された昭和天皇記念血液事業基金による昭和天皇記念献血推進賞を受賞している。

少子高齢化時代を迎え、今後どのような献血推進活動が求められているか、日本赤十字社に取材した。

小中学校からの献血教育で関心を高める

日本赤十字社・日本血液事業本部 献血推進課の菅原拓男課長は、献血量と献血者数の推移をまとめたグラフを示しながら、「表面的には需要に見合った血液の確保が出来ているのですが、献血者数は減少しています。40歳以下より献血や成分献血が増え、一人あたりの献血量が増えることで需要を賄っているのが実態です」と説明する。

東京都の調査では、輸血を必要とした人の85%が50歳以上の中高年。今後、高齢者が増えることは必至で、輸血用血液製剤の需要は増えることにはあっても、減ることはない。

国立社会保障・人口問題研究所が発表する人口推計では、2007年に65歳以上の高齢者は10人に2人だったのが、30年には3人、55年には4人になるという予測も注目を集めている。高齢者に人口比率の少ない若い世代が多く、高齢者を支えなければならぬことが分かるが、加えて献血者が減少していけば、救命医療に重大な支障を来すことになりかねない。

特に10代、20代の若い人たちの献血が少なくなっているのが心配。

と菅原さんは指摘する。

厚生労働省は、将来における安定した血液製剤を確保するため、08年度に献血推進のあり方に関する検討会を設置し、今後の献血推進方策についてさまざまな角度で検討し、その結果が同検討委員会報告書として提示された。同検討委員は、全国の16歳~20歳の若者を対象に、06年と09年に献血に関する意識調査を行い、献血への関心を問



したのは、06年に52.2%で、かつらうして半数を回復した。07年の調査では45.8%に減少し、無関心派の方が多くなった。

このまま献血が無関心を若者が増えれば、どうなるか、答えは明らかだ。

小中学校からの献血教育で関心を高める

若者の献血離れを、菅原さんは「学校での集団献血が減少、経験上ではない人が増えたことにも原因がある」と考えている。意識調査でも、献血をしている人の多くは20歳までに経験があり、高校時代に経験がある人は回数が多くなる傾向が見られた。

自分も助けられる、という気持ち

若者世代への啓発活動、献血者が増えたことでも、進行する問題もある。少子化が進むと若者世代の絶対的な人口は減る。人口の増えの献血回数を増やしていく取り組みも必要だ。

菅原さんの見通し、集団献血が減少したことは献血離れの原因の一つとされている。これは、特に高校生の時に経験させることで、若い世代の関心を高めることが出来るのではないだろうか。献血推進のあり方に関する検討会でも、高校生の意識を高めるための方策を議論、検討している。

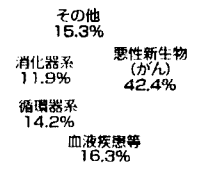
高等学校の学外指導要領解説には、保健体育の時間、献血制度について、適宜触れるようにしていること盛り込まれ、2013年、14年度には、教科書でも献血制度に触れる予定である。

日本赤十字社、同検討会が討議を踏ま

若者世代への啓発活動、献血者が増えたことでも、進行する問題もある。少子化が進むと若者世代の絶対的な人口は減る。人口の増えの献血回数を増やしていく取り組みも必要だ。

献血推進のあり方に関する検討会では、100歳以上の全血献血が出来ない年齢層の引上げも、需要の多い血小板製剤を確保するため、血小板成分献血が出来ると上限年齢を引き上げること、輸法は年齢層から血液を確保することを検討されている。現在、平均的な献血回数（1年11.7回）は、

■疾病別輸血状況



日本赤十字社は、これを2回以上は増やそうと、今後増加することを予想する輸血用血液製剤の需要に対応しているとのこと。

例えば、08年1月から複数回献血クラブ会員に対し、糖尿病予防に役立つツリコアルブミン検査を加え、採血時の検査項目を携帯電話で見え健康管理に役立てられるサービスを提供を始めた。これにより、会員登録者数が増え定期的な献血を促すという取り組みも、加えて採血後のケアが重要と菅原さんは言う。

採血後の休憩中は、献血した血液がとれた後、立っているのが、ハンフレッツなどで情報提供を行っている。献血が社会の役に立っていることが分かれ、回数が増えるのを期待している。調査も、献血をした後、ハンフレッツを見れば社会の役に立っていることを知り、献血回数を増やそうと、同向

き、日本人が8割を超えている。献血推進のあり方に関する検討会の資料より、1日平均、献血は1人あたり1.5回に達しているのだと云う。

疾病別輸血状況を見ると、輸血の約半数が、がんの手術による。今や日本人の10人に6人が、がんにかかっている。将来、自分も献血により、生命を助けられるかもしれない、という意識を持つようになれば、自然に献血への関心を高めるのは、自然なことか。

自頃から献血推進の取り組みが広がっている方は、幾分ともうまいのか、献血や血液製剤のことを十分に理解している人は少ない。

血液製剤の中には、白血病ががんなのと、疾患で使われる血小板製剤の需要は特に高いため、特定の成分を自ら取り出す成分献血を推進している。しかし献血者の中には、なぜ成分献血を勧めているのか理解している人は少ない。

また、献血推進のあり方に関する検討会資料では献血の種類についての認知上、個人は「割と低く」。

成分献血は血小板や血漿といった特定の成分を、確保することから出来る。つまり、採血時間は長くなるものの、回復に時間がかからず、血球を体内に戻すため、献血者の身体への負担は少ない。献血者にも、患者にも、

企業とパートナーとなつて献血を推進

献血を推進する側にも変化がある。献血推進に長い実績を持つライオンは、近年は個人情報保護の観点から献血の受付業務にかかわるなくなり、以前よりも関心を高めている。また、以前よりも関心を高めている。また、以前よりも関心を高めている。

献血を推進する側にも変化がある。献血推進に長い実績を持つライオンは、近年は個人情報保護の観点から献血の受付業務にかかわるなくなり、以前よりも関心を高めている。また、以前よりも関心を高めている。

日本赤十字社、同検討会が討議を踏ま

若者世代への啓発活動、献血者が増えたことでも、進行する問題もある。少子化が進むと若者世代の絶対的な人口は減る。人口の増えの献血回数を増やしていく取り組みも必要だ。

献血推進のあり方に関する検討会では、100歳以上の全血献血が出来ない年齢層の引上げも、需要の多い血小板製剤を確保するため、血小板成分献血が出来ると上限年齢を引き上げること、輸法は年齢層から血液を確保することを検討されている。現在、平均的な献血回数（1年11.7回）は、

愛媛県・新居浜うちちライオンズが
別子銅山子ども探検隊



新居浜うちちライオンズは、横井文明会長、30人は2006年度に結成10周年記念事業として、愛媛県立新居浜南高等学校情報科2部の生徒たちを支援して、「近代化産業遺産別子銅山」を作成した。この縁から、クラブが市教育委員会と共催で取り組む「別子銅山子ども探検隊」で、同校生徒にガイド役を務めてもらおうとする。事業の目的は、児童が別子銅山の現地学習を通して先人の遺業を知り地域を愛する心を持つこと、登山により忍耐力を育み、友達との協力から仲間意識を帯びて育つことにある。

今年10月24、25日に実施した参加者は市内の小中学校高校生31人、

高校生8人、それに教育関係者15人、オンス会員を含め総勢61人。日浦登山口から紅葉を愛でつつ登り始める。登山道にはさまざまな別子銅山の史跡があり、高校生は日頃の学習成果を充分に活用して説明してくれた。子どもたちは根気よく丁寧に教える姿に感動を覚えた。最初の坑道、歓喜坑で昼食を取り、銅山の頂上に到着。あいにくの雨で視界が悪かったが、山頂からの展望は素晴らしい。下山は険しいが、子どもたちは何度も尻もちをついた。夕食には皆で協力してカレーオンスを作り高鼓を打った。夕食後は薄い銅板の折り紙で創作し、

悪戦苦闘の末、世界に一つの作品を作り上げた。秋の夜はワイワイガヤガヤ、多くの友情が生まれた。

2日目は、東洋のマチノヒコロと呼ばれる東平地区を散策。その後、広瀬歴史記念館を訪問し、別子銅山の初代総理事・広瀬幸平、別子の山々に緑を残した伊庭貞樹らの偉業について学習し、全日程を終了した。

児童は疲弊労働の中にも元気に笑顔を浮かべていた。大人、高校生、新入会友夫人の出会い、さびた大きな感動があったはず。今後また代を担う子どもたちの心に、将来もっと花開く体験の種を蒔き続けたい。

〔青少年委員長 塩崎豊〕

栃木県・佐野中央ライオンズが
年間12回の献血会



佐野中央ライオンズは、豊岡重男会長、31人のアクトレスが中心で、毎月第1火曜日に実施している献血会がある。献血はボランティアな任意活動だが、車庫で年間12回開催しているクラブは多くはないだろう。

会場には佐野市内にあるオンス栃野新都市店に協力頂き、正面玄関前のお客様用駐車スペース10台分を借り、献血車の音を配車する。献血会の当日は、早起きして駐車スペースの場所取りから始まる。献血会専用クラブ・テナ

メント看板を設置、赤十字献血センターの機器設置に協力した後、PR用看板を片手に来場者に協力を呼び掛ける。

しかも、平日の昼間どころか、来場者の少ない午前や天候が悪い時など、なかなか協力者が集まらないこともある。近年では広報活動にも力を入れ、PR用ポスターを毎年作り市役所等の公共施設に掲示したり、佐野市広報等に案内を掲載してもらっている。そのかいも、市民にも徐々に浸透し

てきたようだ。クラブの献血会はリピーターの協力者が多いのも特徴で、顔見知りになり、いつもありかたうございます、とあいさつを交わすことも出来るようになった。

毎月の活動なので、部のメンバーは月に負担が掛からないよう、年間スケジュールを組み、手分けして継続している。屋外なので、夏の暑い日、冬の寒い日は大変だが、地域貢献を志す会員でかまはない。

〔幹事 山本正明〕

青森県・南野総ライオンズが
献血協力者2万人達成



28年前、ある会員が東京に出張時、上野駅前で活気あふれる献血アクティビティを目撃した。これは早速開いた。オンス、東京上野ライオンズで毎月活動中とのこと。ぜひ我がクラブもと提案、承認された。

記念すべき1982年、新町の奉行者大団で第1回の呼び掛けをした。初年度は3回で計519人の採血者を放した。2年目は5回で978人、8年目に5千人達成。それから9年後に1万人、更に4年後の21年目に1万5千人目となった。昨年に伴うまいの池内清江さん、60歳は、元氣なうちに100

人の役に立ちたいと受諾で語った。そして遂に28年目の今年、2月28日に2万人達成。第190回目献血活動の快挙だ。

記念すべき2万人目の駒本正紀さんは43回目の献血をした。青森も大きなライオンズで、16人の前田会長から認定証と記念品を贈呈した。

04年には厚生労働大臣が第1回献血運動推進全国大会において功績を評価され表彰された。地区のウエスターディング大会及び金賞、銅賞も計7回受賞しており、先帝ライオンの活躍

を物語っている。

青森県知事表彰と感謝状は05年に贈られて以来、ほぼ1年おきに受賞。記念アクティビティとして15周年には献血センターに献血補助車、20周年には血液成分分離装置を、25周年には献血推進広報車、そして30周年には広報用ポスターを贈呈した。

現在クラブは会員数が減少、会員増強の佳機に思いついた。先帝ライオンの功績を無にせぬよう、会員、凡そあってか人は、献血者3万人に向ける、新たな気持で邁進したい。

情報・PR委員長 出明時彦

千葉県・南房総ライオンズが
完全ペーパーレス・クラブ運営



南房総ライオンズは、20人から結成されたのが3年前。クラブ運営をスリム化、限られた予算を有効に使うために、事務局と職員は持ち手、事務局機能を備えたホムズ・オンス・クラブとして運営している。会則や入会申込書、会計報告書など、あらゆる書類はすべてペーパーレスで、これを自由に利用出来る。幹事と委員間の連絡もホムズ・オンス上、例会や活動の出欠状況も各自書き込み、全体の出入状況も全員が確認出来る。

更に、今年1月からは、例会でもペーパーレス化を図ることにした。紙質

資料の幹事報告書を作らず、例会ではワウエーターでホムズ・オンスを表示し、幹事と口頭で活動予定や連絡事項を説明する。

インターネットを活用することの利点を挙げてみよう。

- 1 例会等の案内の送信は不要
- 2 会員各自が出入欠席に「○」を記入
- 3 会費の入金状況を全員が確認出来る
- 4 例会配布用の幹事報告書は不要
- 5 クラブ資料共有化で各自の保管不要
- 6 事務局及び職員もペーパーレス運営

7 事務局費、通信費、印刷費ゼロ

8 事業費に多額を算配分が出来る

こうした取り組みにより幹事の負担が大幅に軽減し、次期幹事の任命もスムーズになった。インターネットも幹手人も、例会ごとにホムズ・オンスを見ることで、自然に無理なく慣れ、いくつ会員は例会出席を記入するためにホムズ・オンスを開くので、必然的に情報も伝達される。全員で取り組み、委員の結束力も増し、その効果は絶大な。当然増地面でもエロロカキで、時代に即したクラブ運営となった。

会長 原田利昭

的に進められ、私共クラブの献血並に骨髄バンク登録事業も、その一環としてとらえて頂き、全社的立場での協力を頂いており、さき日本の一流企業であるといふことを実証されている。

ご承知のように、今、献血は協力者が少なく、大きな社会問題となりつつあり、血液が無かったため、五十五才の大切な生命を落としていく人も少なくない報道されている。政府も法律を改正して、100歳以上の採血年齢を18歳から行おうとしている。その拡大に努力されている。



そこで提言でもあるが、全国のライオンズクラブが行っている献血並に骨髄バンク登録事業を拡大し、一層成果が上がるようにするため、私共実践している企業、学校、団体等の協力要請を、全国のライオンズクラブに呼びかけて頂く。齊に行くと原価も低く、成果も上がるか。企業、学校、団体等では、CSR、あるいは社会奉仕、高校、専門学校、大学等では、どのような社会奉仕をすれば、単位修得を認められることになっている。という立場で、必ず協力して頂けるとの確信を持っています。

つて積極的な努力すれば、必ずや大きな成果を上げ得るものと期待している。多くの病める人たちの生命を救う活動に、ぜひ結びつけて頂きたいと提言するところである。

ライオンズに魅せられて

木村 實（福岡県・久留米ちとせ）

本誌月号は、在籍日年を振り返って、90歳の木村義次（鹿児島ライオンズ）が投稿されています。

そして、自年間の内、例会欠席はたな一回とのこと、大変残念だったので、はないかと拝察いたします。

奇しくも私も在籍日年になりますが、幸いにも健康に恵まれ、また何よりも例会出席を優先した結果、自年間例会無欠席をいままで続けています。よく飽きもせずライオンズクラブを続けているものなご時々の理由を自問してみるのは、各々は、ライオンズに魅せられて、むしろか出せません。それと私は、ライオンズクラブは人間形成の道場と多感しています。

相手の意見をよく聞き、勝手に行動を擅み、自己の非は素直に認める。相手を激励し、祝福する心を持つ。自己の責務を果た

す等、団体行動における要諦は欠かすべし。相手の人格を尊重しつつ、自己の意見は堂々と述べて議論すること、クラブも個人も成長するように努めなくてはと思っています。

私は10月で齡81歳を迎えます。長寿の時代、長い人生とはまた言えません。ライオンズ人生自年間、長いようで短く、遅いようで早かった歳月を振り返って見ると、ライオンズクラブの各役職と経験、またキキを上下構成員を任じられたり、更に現在は終身会員に推薦され感謝しております。今後大会以来の例会無欠席の記録を伸ばしていきたいと同時に、友愛の情に満ちた会員からライオンズクラブを築きみたいと思っております。木村義次は90歳を超えたいと思います。目標は、まだかえはっていません。